

特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

会報



vol. 33

発行日 令和5年3月24日

発行者 特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

住 所 島根県松江市白瀬本町43番地

スティックビル3階

電話・FAX 0852-60-5389

Mail shimanecaremane@knh.biglobe.ne.jp

## 日本介護支援専門員協会へ入会し 自分たちの地位と仕事を守りましょう

日本介護支援専門員協会 島根県支部長 石 飛 智 朗

皆さんは、日本介護支援専門員協会へ入会されていますか？

現在、島根県介護支援専門員協会（以下県協会という）の会員数は755名で、そのうち日本介護支援専門員協会（以下日本協会という）へ入会されているのは110名です。多くの方は県協会までの入会となっているのが現状です（協会に入会していない方も多いですが）。

日本協会は各都道府県協会が地区支部となっており、現在鳥取を除く46支部があります。そのうち、26支部は地域の協会に入会することで自動的に日本協会まで入会する「一本化」がなされています。島根県協会でもこれまで理事会等で、この一本化の協議を何度も行っていますが、行政からの法定研修等の委託を受けていなく、会費を中心として運営している財政基盤の弱い県協会では、一本化による会費負担が増えることで退会する方が増え、会の運営が難しくなるとの意見が多く、日本協会への入会は個人の選択となっています。

よく、「会費を払って入会してもメリットがない」といった声を聽きます。会員個人に目に見える形でのメリットは感じにくいのもわかります。しかし、近年はオンラインで日本協会主催の研修を直接受講できる環境もあり、メリットは自分で作ることが出来ます。そして何より「介護支援専門員の地位を向上させる」「制度設計や報酬改定へ自分達の声を反映させる」といった、自分たちの地位・仕事を守ることが最大のメリットではないでしょうか。入会してはじめて声をあげる権利を持てるのです。日本協会では社会保障審議会の委員として出席をはじめ、様々な場面で皆様を代表して意見をあげています。その意見が反映されるためには「会員数」が声の大きさに繋がります。介護支援専門員の未来をより良くするために、日本協会へ入会し一緒に活動しましょう。



日本介護支援専門員協会  
副会長 牧野和子 氏



日本介護支援専門員協会 中国ブロック理事 橋 康彦 氏  
(一般社団法人 山口県介護支援専門員協会 副会長)

# 島根県ケアマネジャー研究大会に参加して

## ケアマネジャーの「未来」を歩むために

美作大学 田 中 涼

去る1月28日（土）、松江市を会場とし、日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会を兼ねた、第19回島根県ケアマネジャー研究大会が開催された。「ケアマネジャーの未来を見つめる」ための様々なプログラムが用意され、参加者にとってはケアマネジャーとしての自身のアイデンティティを問う、貴重かつ充実した時間になったのではないだろうか。

さて、各プログラムの詳しい内容は割愛させていただき、研究発表を通じて感じたことを少々述べさせていただく。今回の研究発表は、口頭・紙面合わせて7題が寄せられた。これらの研究の共通点は、「ケアマネジャーのサポート」であったように思う。山口県のゆらぎ研究、島根県益田地域の魅力探求研究、島根県出雲地域のICT活用研究、島根県雲南地域の働きがい研究は、ケアマネジャー個人のレベル（ミクロレベル）に焦点を当てたものであった。利用者支援と社会の変化に適応する過程で、ゆらぎ・苦悩・ジレンマが生じながらも、ケアマネジャーがケアマネジャーであろうとする姿が描き出されていた。広島県の地域ブロック支援研究、岡山県のBCP策定支援研究、島根県松江地区の協会役員役割研究は、職能団体レベル（メゾレベル）に焦点を当てたものであった。ケアマネジャーが個人で向き合うことが困難な課題を、同じ困難を抱える「当事者」として、ともに考え、支える姿が打ち出されていた。

基調講演で、ご講師の石山麗子先生が「ケアマネジメントの惑星化」という表現を用いて、今日のケアマネジメントのポジションニングを整理された。ケアマネジメントはどこからやってきてどこに向かおうとしているのか。人間の生活を紡ぐケアマネジメントは、繰り返し行われる社会保障制度改革の影響・干渉を受けながら、広い宇宙で惑星のように漂っている。しかし、向かう方向を定められない途上であったとしても、今回報告された研究発表は、ケアマネジャーがケアマネジャーをエンパワメントし、居場所を見つけるための可能性を秘めたものであった。その研究成果から、私自身、多くの示唆と勇気をいただいた。研究に取り組まれた皆様に敬意を払うとともに感謝をお伝えしたい。

最後になるが、私自身の自戒も含めて、今後の課題についてふたつのことに触れておく。ひとつ目は研究の継続である。皆様の実践の言語化に取り組んでいただきたい。その際、ぜひ教育・研究者と共同研究をしていただきたい。皆様が身を寄せている実践という名のフィールドには、生活に困難を抱えた方がその人らしい地域生活を営んでいくためのヒントがちりばめられている。ぜひとも、その実践知を共有していただきたい。二つ目はマクロレベルの実践に意識を向けていただきたい。ここではマクロレベルを福祉政策への関与と定義させていただきたいが、都道府県・市町村への政策提言に取り組んでいただきたい。ケアマネジャーが、利用者との専門的援助関係を通じて理解することができる地域生活と地域生活課題が必ずある。それを代弁することは、ケアマネジャーだからこそできるアドボカシーでもある。



美作大学 講師 田中 涼氏

ると信じている。

皆様の益々のご活躍を祈願するとともに、今研究大会で教育講演のご依頼をいただき、携わることができたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 島根県ケアマネジャー研究大会に参加して

広島県介護支援専門員協会 渡 部 貴 則

今回の中国ブロック大会（島根大会）は、「ケアマネジャーの未来を見つめる～協働による自己実現を目指して～」という深く考えさせられるテーマでした。多くのケアマネジャーが、協働による自己実現が少しでもすすむ状況であれば、これほど素晴らしいことはないのですが、現実を振り返ってみると必ずしもそうではない現実もあるのではないかと思う。そういった中、足元を見つめてみると、広島県協会では、地域ブロックの活動を支援している地域ブロック交付金のことが頭に浮かんできました。ただ、今までその効果を検証していないことにも気づきました。

今回その機会を頂いたと思い、各ブロックにアンケートをして取りまとめたものを中心に研究発表では報告させていただきました。

その中身を見てみると、気づきも多く、広島県介護支援専門員協会に入っている人は、日頃から自己研鑽に励んでいることが、明確に確認できました。そのため、職能団体として機能していることは確認できたのですが、現在の会員数は、約2000人で、実務についている人の2～30%にとどまります。会員以外の人たちに協会の取り組みを知ってもらい、仲間になってもらうことが、大切な事だと痛感しました。対人援助の仕事は、楽しいことばかりではありません。しかし、それを乗り越えた先に本当のケアマネジャーの働き甲斐、充実感があるように思います。そのためには、地域の仲間とつながり、一緒に苦しんだり、楽しんだりする機会が大切なのではないでしょうか。そういった意味では、職能団体の活動は大切です。

職能団体に加入して活動することは、一つの方法です。会員になっていない多くの方に各県の協会の活動を知っていただき、一緒に活動していただきたいと改めて感じる大会でした。



研究発表者  
一般社団法人広島県介護支援専門員協会  
渡部貴則 氏



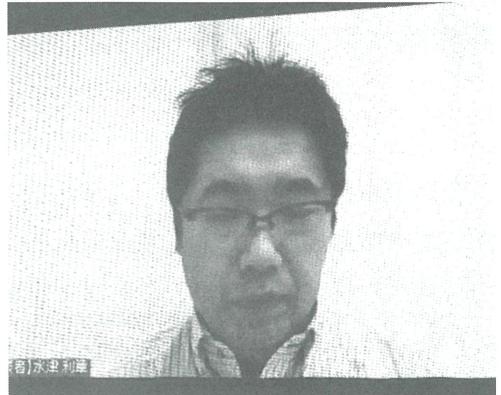
## 島根県ケアマネジャー研究大会に参加して

山口県介護支援専門員協会 水津利章

今回のケアマネジメント研究では、「ケアマネジメントにおける介護支援専門員のつまずきやゆらぎについての考察」と題して、研究を行いました。

介護支援専門員は業務として、常にご利用やご家族、サービス事業所など、様々な方々と関わりを持つ中で、「公正中立」の視点を持ちながら、ケアマネジメント力を生かすことが必要とされています。今回の研究結果では、経験年数や基礎資格により、様々な「つまずき」や「ゆらぎ」を感じていること、その原因はアセスメント不足によるものとの結果も見えてきました。また、主任介護支援専門員へのスーパービジョンや、中堅と言われる5年以上10年未満の介護支援専門員のスキルアップも課題に感じられました。

今回の研究をもとに、個々の介護支援専門員の資質向上につなげ、より良い居宅介護支援が提供できるよう連携をとり、介護支援専門員間で、様々な意見交換を行いながら、互いにスキルアップが図れれば思います。



研究発表者  
一般社団法人山口県介護支援専門員協会  
水津利章 氏



## 第19回 島根県ケアマネジャー研究大会に参加して

益田地域介護支援専門員協会 寺戸 義昭・俵 千絵・渡辺 秀美

益田地域協会では、「益田地域の課題は何か、それを解決するための取組を研究してみよう！」という考え方からスタートし、“楽しみながら”を合言葉に研究活動を進めてきました。

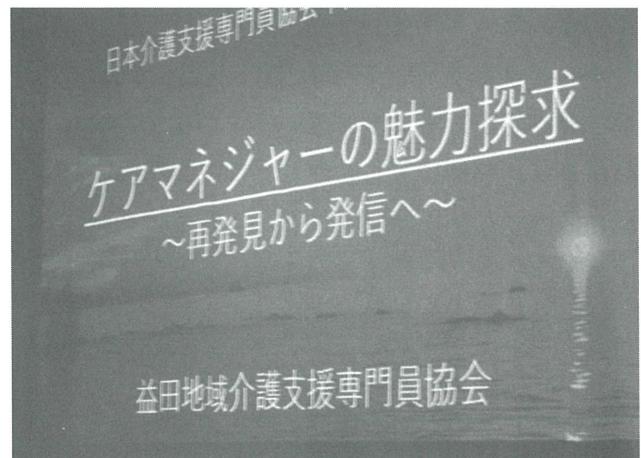
昨年度から継続した取組として『ケアマネジャーの魅力探求～再発見から発信へ～』をテーマに研究発表をさせていただきました。

役員会では、様々な職場で実践しているケアマネジャーが集まり意見を出し合うことで、一人では気づけなかった視点を得ることができ、また役員同士の関係も深めることができたと感じています。

当日はとても緊張しましたが、仲間と一緒に参加しても和やかな雰囲気の中発表することができました。また、発表後はねぎらいの言葉をかけてくれてとても温かい気持ちになりました。

ケアマネジャーは一人で抱え込んでしまうことが多くあると思いますが、この研究活動を通じてみんなが同じ思いで向き合うことで「ひとりじゃない」と実感でき、改めて役員になって良かったと感じました。

ケアマネジャー不足は本当に深刻です。これからも協会として一人ひとりの支えになれるよう、温かい居



場所づくりができればと思います。

研究発表という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



## 第19回 令和4年度 島根県ケアマネジャー研修大会 「ケアマネジャーの未来を見つめる」に参加して

雲南地域介護支援専門員協会 居宅介護支援事業所みとや 井 田 由美子

10年に1度の寒波で松江市では珍しく20cmを超える積雪に戸惑いながら、島根県ケアマネジャー研修大会に参加させて頂きました。

日々の業務の中で、身近なところでのコロナ陽性者や濃厚接触者が確認されるたびにケアマネジャーとして関係者への連絡、サービス調整と様々な対応をしながら仕事をしています。個人的には、主任介護支援専門員の更新研修を昨年受講し、ケアマネジャーに求められる役割は多岐にわたり多職種協同は必要不可欠と痛感しました。その反面、責務の大きさに押しつぶされそうになることもあります。

これから自分の、ケアマネジャーとして何をするべきなのかを見つめ直す機会としてこの研修に参加しました。

石山麗子先生の講演では、3年に1度の介護保険制度の見直しのポイントや、介護現場の生産性向上の推進、制度の持続可能性の確保について、ケアマネジャー・利用者それぞれの施設や在宅におけるテクノロジーの活用を丁寧に説明してくださいました。

昨年、「介護保険制度の見直しに関する意見」で示されたケアマネジメントに関する記載の柱には、「一人ひとりに寄り添う介護サービス」と記されていたことに先生は科学が台頭する今、あらためて温もりを感じるこの表現を国が行ったことに少しの驚きを感じつつも嬉しく思ったと書かれていました。だからこそ【繕り合わせて学ぶ実践する次へ発展させる】とケアマネジャーの役割を表されたと感じました。

田中亮先生の講演では特にケアマネジャーのバーンアウト バーンアウトの予防には仕事の量的負担の軽減と上司の支援が重要とのことでしたが、個人差があり推し量れない部分もあると感じました。ソーシャルサポートとエンパワメントによるケアマネジャー支援の可能性は自分自身が自己肯定感を高め、エンパワメントを図ることでケアマネ同志のソーシャルサポートに繋がると思いました。

研究発表では、益田地域のケアマネジャーの魅力探求が雲南地域の働きやすい環境や魅力を上げるためにどうすればいいのかの課題と同じで、これを機に情報交換、共有、発信を一緒に行っていきたいと思いました。



国際医療福祉大学大学院教授  
石山麗子 氏



## オンラインでの視聴をしてみて

ほほえみライフ 居宅介護支援事業所 田屋正美

この度、島根県ケアマネジャー研究大会をオンラインにて視聴させていただきました。

新型コロナ感染症蔓延防止により、オンラインでの研修も多くなってきた昨今、遠方で開催される研修が受けやすくなりました。目の前のパソコンでスライドを見る事ができるため、とても見やすく、また講師の先生方の話もとても聞きやすく感じました。

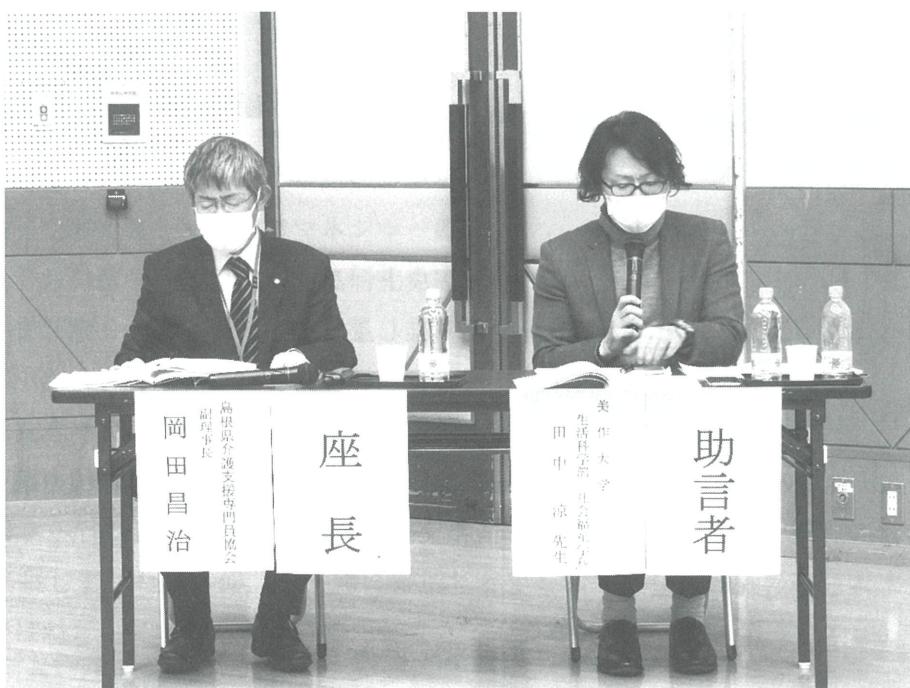
しかし、会場ではなく自分の自宅もしくは会社等、自分だけではない環境で受けることもあり、集中できなかったり、緊張感や会場の雰囲気を味わえないということもあるというデメリットもあります。

この度は、寒波による交通事情に踏まえ、新型コロナ感染症予防としてオンラインでの参加にさせていただき何の心配をすることもなく研修を受けることができました。

今年5月8日から、新型コロナ感染症も5類引き下げが決定しました。しかし、コロナ感染症がなくなることはありません。高齢者福祉に携わる我々としましては、5類に引き下げられたからといって、すぐに以前のコロナ前の生活に戻れるかどうかは難しいのではないかと考えます。

今後も会場とオンラインを合わせて、各々が受けやすい環境を選べる研修があればぜひ参加したいと思っております。

この度は円滑にオンラインでの研修が受けれるよう尽力していただいた県協会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



## ・災害支援ケアマネジャーフォローアップ研修・

### 災害支援ケアマネジャーフォローアップ研修を受講して

合同会社 社会福祉支援ちいしば 川上千春

研修では、全国各市町の個別援助計画などの災害支援の取り組みを紹介された。中でも印象に残ったのは、「実効性」「地域調整会議」「防災＝福祉、福祉＝防災」である。

「実効性」とは？災害支援の計画を立てても、実際の災害時に機能しなければ意味がない。発災時機能するよう、より具体的なものにする必要がある。いつ誰がどのように避難をさせるのかなど具体性を持たせること。さらに避難訓練などで、計画が本当に実行できるものになっているかを検証する必要がある。

次に「地域調整会議」。「防災に置いて先進的な市町では、地域ごとに防災に関わる担当者（行政、公民館職員、地区民生委員、ケアマネジャーなど福祉職などが顔を合わせて地域の災害支援について定期的に話し合いを行う場が設けられている。顔の見える関係を作り、災害支援に関わる地域の人たちが各々どのような役割を果たしていくかを確認、相談する場となっており、より実効性のあるネットワークが構築できる。

最期に「防災＝福祉、福祉＝防災」。福祉は色々なハンディキャップを持つ方々を支援し、社会の中で安心して生活して頂くことを目的としている。他方、防災においても、ハンディキャップを持つ方々が最も被害に遭いやすいため、そのような方々を支援することが最重要となる。防災や災害支援は、我々福祉職の担う重要な役割の一つということになる。

以上が今回の研修で印象に残った事柄であり、今後自分たちの市町でも共有し、取り組むべきであると考えている事柄である。

## ・\*・\*・\*・\* ケアマネジメント研修 \*・\*・\*・\*

### ケアマネジメント研修「みんなで考えよう !! これからのケアマネジャー像」に参加して

知夫村社会福祉協議会 居宅介護支援事業所 福山真裕子

12月12日 ZOOM にて研修に参加させていただきました。今回の研修では業務の効率化や仕事に対する考え方についてお話を聞くことができました。

最近は業務の効率化に向け、様々な情報が飛び交い ICT を活用する企業・事業所が急激に増加しています。AI の活用が日常的になれば、もっと業務の効率化が図れるのではないか、と希望が持てる反面、利用者・ご家族への対応が機械化されることへの不安や、自分達の考える能力がかなり低下するのではないか？との不安もあります。

業務の効率化を図り、日々の業務の中で優先順位を決め、余裕をもって業務をこなすことは理想ですが、現在しなければならないケアマネ業務の中で、不要なことはないのか？本当にこの様式・内容が必要なのか？と疑問に感じる点があり、業務の効率化と同時に、業務内容の見直しも必要ではないか？と考えます。最近の研修は、適切なケアマネジメントについての研修が多く、講師の方は皆同じような内容を話されます。きっととても大事なことだと思い話されるのでしょうか、研修後参加者同士で話すことは、書類だけでもこんなに沢山の業務量があるのに、綺麗ごとばかり……。こういった意見が多数なのが現実です。なぜこの繰り返しになるのか？ただ単に業務の効率化を図り、毎回同じような研修を繰り返すことで解決できる問題なのか？とても疑問に思います。そしてモチベーションの保ちかた、仕事としての割り切りかた、自分自身を大切にしながら業務を行なう……どれも大切な内容ですが、根本的な問題が解決できなければ（実践者が納得しなければ）これから先何度も研修でお話されても、心に響かないと思います。

理想のケアマネジャー像を語るより、現実に困っている内容をどう解決していくか、どう効率化を図っていくことが重要なのか、そして何を目指すのかといった研修が増えることを期待しています。

ちなみに私はケアマネ業務にすごくやりがいを感じています。今後も自分自身の知識・技術を向上していくように頑張りたいと思います。

## 日本介護支援専門員協会入会のお願い

日本協会の会員数を増やすことは、介護支援専門員の地位や仕事を守ることや取り巻く状況を変えることにつながります。一人ではできないことを大きな力で取組みましょう！

\* 令和5年4月1日～5月31日まで新規入会キャンペーン中！ \*

申込みお問い合わせにつきましては各圏域協会または島根県介護支援専門員協会 事務局までお願いします。

一人でも多くの入会をお待ちしております。  
一緒に活動しましょう。

### 編集後記

春の暖かさを感じる頃になりました。例年より遅くなってしましましたが、会報をお届けいたします。

今年度の研究大会は中国地方からの発表がありました。他県の取り組みに触れ、新たな視点を得たり、改めて協会の存在意義を考える機会になりました。令和5年度の中国ブロック大会は岡山県で、全国大会は栃木県で開催されます。オンライン参加も可能ですので、ぜひご検討ください。

令和5年度が始まります。引き続き協会活動にご協力、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

(副理事長 大場律子)